注意報

茨城県病害虫防除所　　令和２年１月31日

病害虫発生予察注意報 第３号

促成トマトで，灰色かび病が例年より多く発生しています。
防除対策を徹底しましょう！

［発表の内容］
作物名　：トマト
病害虫名：灰色かび病
発生量　：多い
発生地域：県下全域

［発表の根拠］

① １月下旬現在，県内８地点の促成トマト調査圃場における灰色かび病の発病株率（本年値 8.5%，平年値 0.4%）は平年より高く，発生地点率（本年値 25%，平年値 8%）は平年よりやや高い（表１）。

② 発病株率および発生地点率は，例年２月頃から高まるが，本年は12月から高い値を示している。(図1,2)。

③ 気象予報（1月 30 日発表）によると，向こう１か月の気温は平年より高く，日照時間は平年並または少ないと予想され，発生を助長する条件である。

表1　促成トマトにおける灰色かび病の発生状況（令和2年1月下旬現在）

発病株率（%）			発生地点率（%）		
本年値	平年値[1)]	順位[2)]	本年値	平年値[1)]	順位[2)]
8.5	0.4	1	25	8	3

1) 平年値：過去10年間のデータの平均値。
2) 順位：本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す。
※調査は県内8地点で実施した。

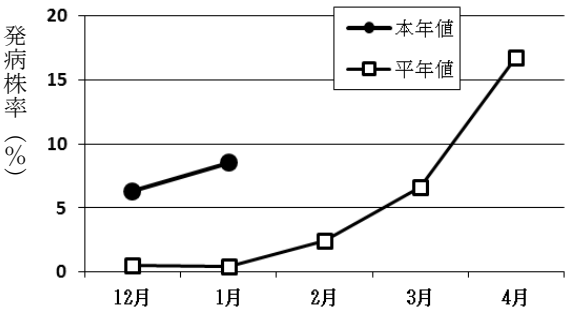


図１　促成トマトにおける灰色かび病の発病株率の推移

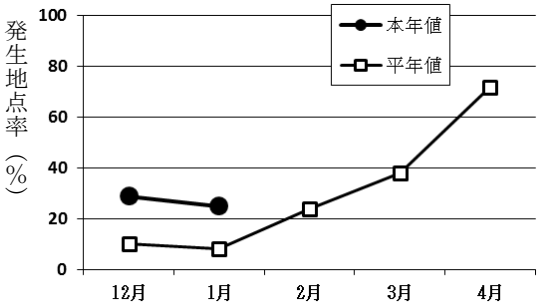


図２　促成トマトにおける灰色かび病の発生地点率の推移

［防除対策］

① 多湿条件で発生しやすいため，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。

② 幼果に残った花弁や，罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。

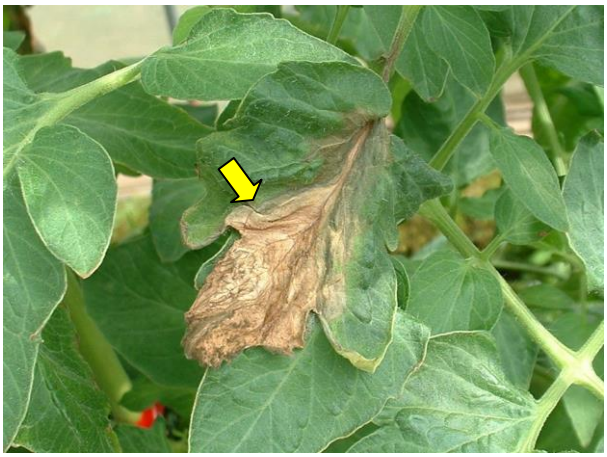
③ 薬剤散布は，表２を参考に薬剤を選び，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

④ 薬剤散布は，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続いて薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

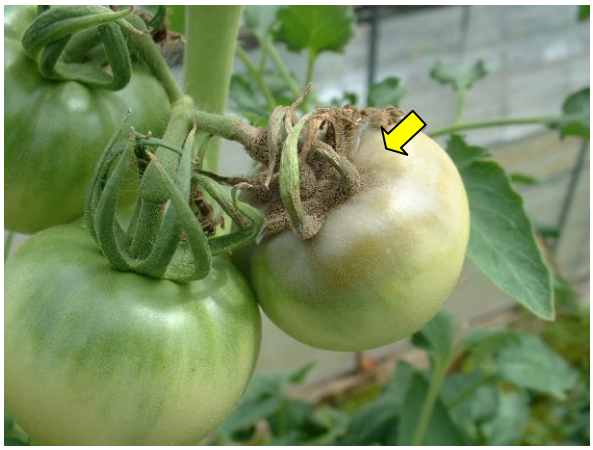
表2　トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤（令和2年1月15日現在）

薬剤名	使用方法	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	FRACコード[1]
アフェットフロアブル	散布	3回以内	ペンチオピラド	3回以内	7
ゲッター水和剤	散布	5回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	6回以内 6回以内[2]	10 1
セイビアーフロアブル20	散布	3回以内	フルジオキソニル	4回以内[3]	12
ファンタジスタ顆粒水和剤	散布	3回以内	ピリベンカルブ	3回以内	11
フルピカフロアブル	散布	4回以内	メパニピリム	4回以内	9
ベルクートフロアブル	散布	3回以内	イミノクタジン	3回以内	M07
ロブラール水和剤	散布	3回以内	イプロジオン	4回以内[4]	2
ロブラールくん煙剤	くん煙	3回以内	イプロジオン	4回以内[5]	2
スミレックスくん煙顆粒	くん煙	3回以内	プロシミドン	3回以内	2

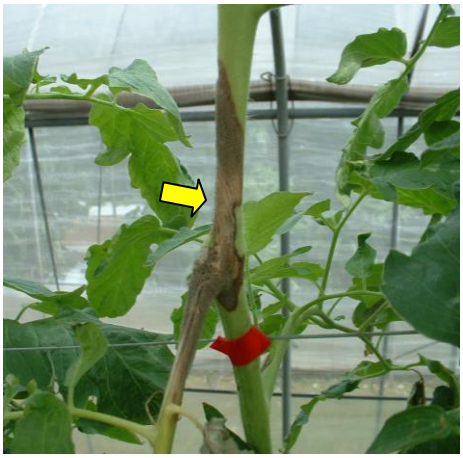
1）殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により，殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し，コード化したもの。
2）但し，種子への処理は1回以内，は種後は5回以内。
3）但し，種子への処理は1回以内，散布は3回以内。
4）但し，種子粉衣は1回以内，は種後は3回以内。
5）但し，種子粉衣は1回以内，は種後は3回以内。



トマト葉の病徴



トマト果実の病徴



トマト茎の病徴